

## 1. 接続

**!** Windows PCのセキュリティ設定として、外部メモリ(リムーバブルディスク)への読み込み/書き込み制限がされている場合は使用できません。

ロガーの下部キャップを外し、Windows PCとロガーを接続をします。testo 184はUSBメモリと同じ様に(リムーバブルディスク)として認識されます。ストレージ中の、「Configuration.pdf」をAdobe Acrobat Readerで開きます。



## 2-1 設定

**!** 測定を開始するためには必ず設定が必要です。以下の手順にしたがって設定をしてください。  
 ※一度測定を終了した場合、再度測定を開始するためには設定が必要です。

PDFファイルを開くとファイル上で設定情報を入力出来るようになっています。

**Configuration Data Logger testo 184**

① 言語: Japanese (日本語を選択)

② 機器を選択: T1, T2, T3, T4, H1, G1 (T1を選択)

③ 高度設定モード: はい (checked), いいえ

④ 一般情報: レポートの言語 (English), レポートのトピック, レポートのタイムゾーン (UTC+09:00 Seoul, Tokyo, Yakutsk), コメント

⑤ 機器設定: 測定間隔 (0:15), スタート条件 (ボタン), スタート日時 (01-09-2013 12:00), スタート遅延 (0:00), ストップ条件 (ボタン), ストップ日時 (02-09-2013 12:00), LCDディスプレイ有効化, LEDディスプレイ有効化, タイムマーク有効化, MKT有効化 (83,144 KJ/mol), バッテリー残量 (120 日)

⑥ アラーム設定: 温度 (上下), 湿度 (上下), MKT (上下), 許容する時間 (60分)

⑦ ここをクリックして、データロガーに設定データを転送してください

⑧ ここをクリックして、データロガーに設定データを転送してください

- ①言語選択  
→設定ファイルの表示言語をプルダウンから選択します(多言語対応)。ここではJapaneseを選択します。
- ②機器の選択  
→設定するロガーのモデルにチェック
- ③高度設定モード(推奨)  
→"はい"にチェックを入れてください。
- ④レポートの言語  
→PDF測定レポートの出力言語をプルダウンから選択します。(多言語対応)

- ⑤一般情報  
→任意のフィールドです。必要な情報を入力ください。
- ⑥機器設定  
→裏面2-2.で説明しています。
- ⑦アラーム設定  
→裏面2-3.で説明しています。
- ⑧設定ファイル出力ボタン  
→設定ファイル(.xml)が出力されます。裏面2-4.を参照ください。

## 2-2. 測定設定

機器設定で、測定間隔、スタート条件、ストップ条件などを設定します。

機器設定	
① 測定間隔	24 時 0 分
② スタート条件	<input checked="" type="radio"/> ボタン <input type="radio"/> 時間
スタート日時	2020-05-27 14:48
③ スタート遅延	0 時 0 分
④ ストップ条件	<input checked="" type="checkbox"/> ボタン <input type="checkbox"/> 時間
ストップ日時	2013-09-02 12:00
⑤	<input checked="" type="checkbox"/> LCDディスプレイ有効化 <input checked="" type="checkbox"/> LEDディスプレイ有効化 <input checked="" type="checkbox"/> レイ有効化 <input checked="" type="checkbox"/> タイムマーク有効化 <input type="checkbox"/> NFC
⑥	日付/時間の種類 YYYYY-MM-DD hh:mm
⑦	MKT有効化 83.144 KJ/mol
⑧	バッテリー残量 119 日

スタート/ストップ条件が時間のとき

スタート条件	<input type="radio"/> ボタン <input checked="" type="radio"/> 時間
スタート日時	2020-05-27 14:51
スタート遅延	0 時 0 分
ストップ条件	<input checked="" type="checkbox"/> ボタン <input checked="" type="checkbox"/> 時間
ストップ日時	2020-05-28 12:00

指定日時を入力してください。

ストップ条件はボタン/時間の両方を選択可能。どちらかに設定することも可能です。

### ①測定間隔

→1分～24時間(または1440分)の間で入力

### ②スタート条件

→STARTボタンで開始か、指定時刻で開始するか選択

### ③スタート遅延

→ボタンスタートのとき、記録を開始するまでの遅延時間を設定可能

### ④ストップ条件

→物理ボタンで終了か、指定時刻で終了するか選択

### ⑤表示/NFC

→LCD(液晶)ディスプレイ有効化: 画面表示のon/off

→LEDディスプレイ有効化: LEDライトのon/off

→タイムマーク有効化: STARTボタンを長押しするとレポートにその時間のタイムスタンプを表示できる機能のon/off

→NFC: 使用できません

⑥日付/時間の種類→プルダウンで任意の形式を選択

⑦MKT(平均キネティック温度)有効化

→演算に使用される活性エネルギー値を入力

⑧バッテリー残量→データロガーのバッテリー残量

## 2-3. アラーム設定

機器設定で、測定間隔、スタート条件、ストップ条件などを設定します。

アラーム設定	
②	<input checked="" type="checkbox"/> 温度 <input checked="" type="checkbox"/> 湿度 <input checked="" type="checkbox"/> MKT <input checked="" type="checkbox"/> 衝撃
③	方向
④	上下限值/単位
⑤	アラームの種類
⑥	許容する時間

※testo 184 G1の場合

①任意の単位を選択してください。レポートにも反映されます。

②有効にするアラームにチェックを入れてください。温度x4つのアラームが設定可能です。

③上下限值に対して逸脱する方向を選択してください。

④上下限值を入力してください。

⑤sin.(単発) またはcum.(累積) を選択してください。

⑥cum.(累積)アラームのときの許容時間を入力してください。

●累積アラームの例:

測定間隔5分、許容時間15分の場合、しきい値逸脱を連続して4回記録した場合に発報します。

## 2-4. 設定ファイルの転送

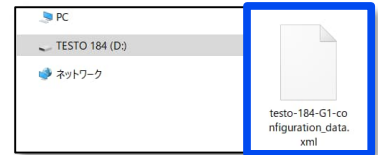
機器設定で、測定間隔、スタート条件、ストップ条件などを設定します。

ここをクリックして、データロガーに設定データを転送してください

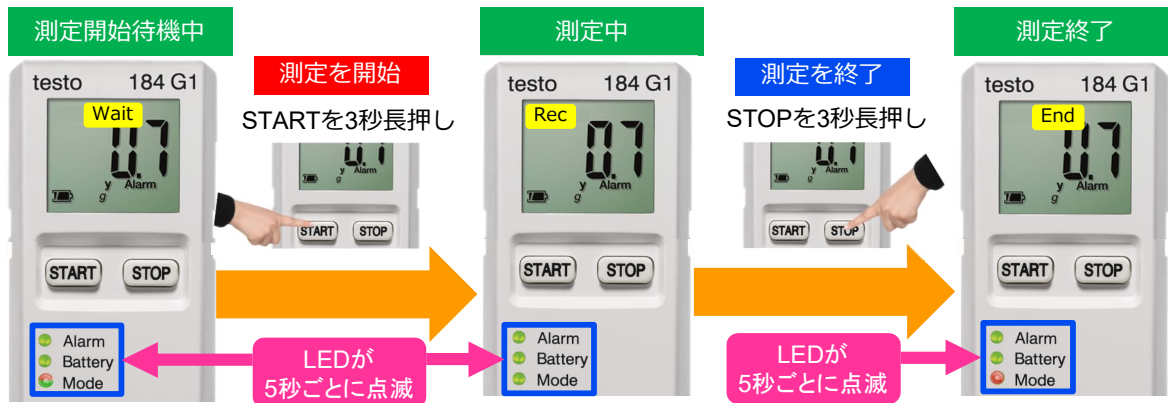


最後に設定ファイル出力ボタンをクリックすると設定ファイル(.xml)が生成されます。これをロガーメモリ内に保存すると設定が完了します。

同じ設定を複数台に適用する場合、ファイルをローカルに保存して、複製使用することを推奨します。



## 3. 測定の開始・終了(ボタンで開始/終了する設定のとき)



### LEDの色と意味

#### Alarm

- しきい値逸脱なし
- しきい値逸脱あり

#### Battery

- 電池残量10日以上
- 電池残量10日以下

#### Mode

- 待機中 (Waitモード)
- 測定中 (Recモード)
- 測定終了 (Endモード)

## 4. 測定データの閲覧

Windows PCとロガーを接続します。



接続後、自動的にレポートが生成されます。

“testo 184 measurement report”をAdobe Acrobat Readerで開きます。

